

競技マナーの注意

2013/6 制定・2015/5 改訂・2017/5・2018/6 改訂
日本将棋連盟山形県支部連合会

将棋は日本が世界に誇る「伝統文化」である。その歴史は500年に及び、現在に受け継がれている。選手には、文化への敬意と誇りを持っていただきたい。そして、「礼儀作法も実力のうち」(鈴木環那女流二段・東北普及部長の師匠、故原田泰夫九段の教え)心に留めて欲しい。

対局者のマナー

1. 駒の並べ方。上位者(年上・段級が上)が王将を取る。(並べ方は大橋流・伊藤流が望ましい)
2. 振り駒。上位者が自陣の歩を5枚取り、振り駒を行い、先手後手を決める。歩が多く出たら上位者が先手。
3. 対局開始。「お願いします」の一礼から始まる。
4. 駒は升目にキッチリと置く。曲がったら途中でも直すこと。
5. 駒台の駒。扇状に並べ、相手にもわかりやすいようにする。
6. 棋具は丁寧に扱うこと。盤駒に傷を付けない、時計は強くたたかないこと。
7. 対局中、席を立つ時、戻った時は「失礼します・失礼しました」と一声発する。
8. 対局中、電子機器(スマホ・タブレット等)は、持ち込み禁止とする。(大会ルールによる)
9. 対局中の私語・飲食は慎むこと。(飲み物は大会ルールによる)
10. 投了は、「負けました」と一礼とともにハッキリと相手に伝える。
11. 勝者は「ありがとうございました」と一礼を返す。
12. 対局終了後のガッツポーズ・バンザイ等の態度は慎むこと。(剣道では「試合で一本とった後、小さいガッツポーズでも見苦しい行為として取り消しになる」ルールがある)
13. 感想戦終了後は、「ありがとうございました」と一礼とともにあいさつを行う。
大会時は進行にご協力下さい。勝者は結果を事務局に連絡して下さい。(大会ルールによる)
14. 終了後、席を離れるときは、駒を初形の位置に並べ直す。(または上位者が駒箱にしまう)
15. 席を立つときは、次の対局者への思いやりで、椅子は机の下に入れる。座布団はまっすぐに直すこと。
16. 「礼に始まり、礼に終わる」を心得ること。
17. 上記マナーに著しく目に余る場合は、審判長・運営者協議の上、勝ちを取り消す場合がある。
日本の武道精神と同じ。「勝って驕(おご)らず、負けて腐らず」。
そして相手を尊重し合いながら切磋琢磨する。

観戦者のマナー

1. 対局席にはあまり近づかない。(1m以上離れること)
2. 対局者の後ろに立って観戦はしないこと。
3. 対局席の横から観戦する。(できれば座って観戦すること)
4. 対局の途中で対局者に声をかけてはならない。
5. 観戦中は私語(ひそひそ話等)をしてはならない。
6. 千日手・持将棋模様の時は、対局者ではなく運営者に知らせることは可とする。
7. 反則の指摘は、大会ルールに従うこと。(誰が指摘しても良い、とのルールがある場合がある)
8. 対局中の差し入れは禁止する。
9. 対局の妨げにならないことを心がけること。
10. 感想戦に口だしはしないこと。
11. 観戦態度があまりにもひどい時は、退場をお願いすることがある。

以上は、山形県支部連合会の運営者が一致した認識のもと、大会運営にあたることを確認する。
一般の大会・大学・高校・中学・小学のいずれの大会でも適用するものとする。